

1. 現状

◎本県の就学前子ども数は年々減少傾向にある一方、県内の保育士等の数は、保育ニーズの多様化を背景にほぼ横ばいの状況

<就学前子ども数及び保育士数>

	R2	R6	差引
就学前子ども数 (0～5歳児)	28,331人	23,685人	△4,646人
保育士数 (保育教諭含む)	4,395人	4,328人	△67人

※特定教育・保育施設等運営状況調査
(各年度4月1日時点。保育士数は常勤・非常勤の計)

◎今後、国の新たな取組の活用も念頭に子育て支援を維持・充実させるためには、さらなる保育士等の確保が必要な状況

<待機児童数>

R6.4.1時点：5人

※保育所等利用待機児童数調査

→育休からの復帰など年度途中の入所希望に対して、保育士確保が課題となり速やかな受入れに至らないケースがある

<次元の異なる少子化対策>

・配置基準改善
(R6.4～) 4・5歳児30:1→25:1
3歳児20:1→15:1
(R7.4～加算措置) 1歳児 6:1→ 5:1

・子ども誰でも通園制度
(R5～R6) 試行的事業
(R7) 法律上制度化
(R8) 給付制度

2. 課題

○求職者と保育職場のミスマッチの防止
・「実習先にそのまま就職し早期退職する学生が多い。より多くの施設を見る機会があればよい」(養成施設)

○県内指定保育士養成施設(4施設)の入学者数減少

・R2:160人→R6:123人(△37人)
※指定保育士養成施設業務報告書

○働きやすい職場づくり
・処遇改善等加算に係る事務など書類作成業務の負担が大きい
・風通しの良さは不適切な保育予防の観点からも非常に重要
(関係団体等)

○保育士等の処遇改善
・県内保育士の賃金：月額250,600円
全産業平均賃金：月額293,700円
(+43,100円)
※R5賃金構造基本統計調査



3. 令和7年度の取組

保育士等人材確保事業委託料

福祉人材センターにコーディネーター(2名)を配置し、就労支援と離職防止の両面からの取組の充実

○求職者と保育所等とのマッチング機能の強化

拡 保育職場に特化した「ふくし就職フェア」の開催
参加者増に向けた広報強化
・県外からの招き入れの充実

UIターンサポートセンターへの保育士等求人登録や移住フェア等での保育職場のPR等

○保育士・保育職場の魅力発信

・高校生に向けた魅力発信
保育施設バスツアー、夏休みを活用した保育所等でのボランティア体験
・SNS等を活用した広報(福祉人材センターの周知等)

○保育士等の職場定着のための支援

・保育所等の経営者層を対象とした業務改善研修の実施

新 若手保育士の交流会の実施

保育士修学資金等貸付事業費補助金

保育士資格の取得を目指す学生に対する修学資金等の貸付

保育補助者配置事業費補助金

保育士の補助を行う保育補助者及び保育支援者の雇上げに必要な費用等を補助

産休等代替職員雇用事業費補助金

保育士等が産休等を取得する際の代替職員の雇用に要する経費を補助

子育て支援員等研修委託料

保育や子育て支援分野の各事業等に従事できる「子育て支援員」を養成するための研修を実施

事務負担軽減のための支援の充実

私立保育所等の施設型給付に係る処遇改善等加算の認定申請等に対する助言・支援を充実させ、保育所等での事務負担軽減を図る。

拡 親育ち支援啓発事業

園内研修支援において「保育職場の人間関係づくり」や「メンタリングに関する内容」など業務改善や若手職員の定着の観点からのメニューを設定

新 若手保育士等の職場定着に向けた支援

ミドルリーダーのメンターとしての役割に関する研修会の実施等

※保育士等の処遇改善については、国において民間給与動向等を踏まえた更なる処遇改善が進められる予定であり、県においても引き続き政策提言等を実施